



PALIS'S TEXT WORKS

満員電車の謎

© *Palismiki*

◆登場人物◆

○被害者A(女性・20代)...気の強い自意識過剰女。

○被害者B(オカマ・20代)...気持ち悪い女装オカマ。

○容疑者(男サラリーマン・20代)...普通の真面目そうなサラリーマン。

○鉄道警察官(男・30代)...常に一定のリズムで喋る、割と冷静そう。

○証人(男・50代)...酔っ払いによくいそうなオッチャン。

【ラジオドラマ:満員電車の謎】

○SE:電車とホームの雑音次第にF.O.

○以下文章よりF.I.導入

容 疑 者 「ち、ちょっと待ってください！！話を聞いてくださいよ！！」

鉄道警察官 「はい、こっちね、気をつけてね……」

証 人 「おら！きりきり歩けえい！この野郎！」

被害者 A 「最低！もうマジ最低…」

被害者 B 「まったくなんなのようっ……もう！」

○SE：ドアを閉める音。

鉄道警察官 「はい、じゃあ、そこ座って」

容 疑 者 「ち、ちょっと話を聞いてください！ぼく、何もやってませんから！」

被害者 A 「冗談じゃないわよ！私は確かに痴漢されましたよ！刑事さん！！」

容 疑 者 「してませんよお！！」

鉄道警察官 「まあね。それをこれから確かめますからね。お客さんも落ち着いてね」

証 人 「この野郎！どうしようもねえ奴だなこの野郎！」

被害者 B 「こんな奴早く死刑にしてくださいっ！！」

鉄道警察官 「・・・ちなみにお客さん(B)は……付き添いの方？」

被害者 B 「あたしだって被害者ですっ！！」

警官・容疑者 「ええ～っ！？」

鉄道警察官 「ええ～っ！？……ってあんたがやったんでしょ？」

容 疑 者 「だからやってませんって！！」

証 人 「うるせえっ！オレあ、ちゃんと見たんだこの野郎っ！？」

被害者 A 「最低！自分の罪も認めないなんて……刑事さん！

こうして証人もちゃんといるんだから早く逮捕しちゃってください

いよっ！！」

被害者 B 「そうよ！そうよっ！！」

証 人 「そうだ死刑だ！」

鉄道警察官 「はいはい、落ち着いてね。痴漢で死刑になった判例なんか聞いたことないですからね～」

被害者 A 「ひどいっ！！刑事さんも犯人の味方するんですかっ！？」

鉄道警察官 「それをちゃんと調べますからね。ちょっと黙っててね」

容 疑 者 「だいたい…なんで僕なんですかっ！？証拠はあるんですかっ！？証拠は！！

」

被害者 A 「触ったじゃないあんた！！あたしのお尻！！」

証 人 「オレあ見たぞ！この野郎！！」

被害者 A 「そんなことどっちでもいいわよ…。早く捕まえてちょうだいよっ！」

証人 「どっちでもいいぞこの野郎！！」

鉄道警察官 「はい、どっちでもよくないですよ～あのですね、ウチの組織は……」

容疑者 「すみません……あの、ちょっとその問題は置いといて、
こっちのほう先やりませんか？」

鉄道警察官 「……そうですか？・・・うーん、まあ、この手のケースは結構あるんですよ
ちょうど今日も朝から雨が降っていたし……満員だったことですし、
大方傘の柄が当たってたんじゃないですか？」

被害者 A 「傘の柄？」

容疑者 「そうですよ！きっと！ほら、傘持ってますもん僕！（鞆から傘を見せる感じの音）」

鉄道警察官 「雨ですからね。私も持ってます。」

証人 「俺も持ってるぞ！この野郎！」

被害者 B 「そ、そんなわけありませんよっ！

私の方は、なんとなくしっとりした柔らかい物が当たってましたし！」

鉄道警察官 「柔らかい……湿った物？」

被害者 A 「え？……(心当たりが無い)」

容疑者 「それはきっと……か、鞆ですよっ！！雨に濡れた鞆が満員電車で当たって…
」

鉄道警察官 「雨ですからねえ…私の鞆も濡れていました。」

証人 「オレのも濡れてたぞ！この野郎っ！！」

容疑者 「ねえっ！？そうですよっ！！雨の満員電車における事故！事故ですよこれ
はっ！！」

被害者 A 「とか何とか言って、容疑を免れようと思ってるんでしょう！？」

被害者 B 「男らしくないわよっ！私あんたみたいな男が一番嫌いなものよっ！」

証人 「ぷぷっ……嫌われた(笑)」

容疑者 「(複雑な気持ちだがよく考えれば悔しくなかった)悔しくねえーしっ！！！」

被害者 A 「そんなことないですよ刑事さんっ…もっとよおく調べてくださいよ」

鉄道警察官 「はい。刑事じゃありませんからね～」

被害者 B 「いや！そうですよ！！だって私のお尻のところで

なんかイボイボした感じのが、うねうね動いていた気がします！

ねっ！？(Aに同意を求める)」

被害者 A 「(心当たりが無い)えっ？そ、そうよっ！！おかしいじゃないっ！！うねうね動
くなんて」

鉄道警察官 「そりゃ……おかしいですね」

容 疑 者 「いや、それは.....現場で働く職人なんかは、イボ付きの軍手とか持ってる
じゃないですか？ 僕、現場管理の仕事してるんですけど、持ってますよ

」

証 人 「俺も持ってるぞ！ 職人だからな！！」

鉄道警察官 「いえ、それを満員電車で着けてるのはおかしいでしょう??」

証 人 「俺つけてるぞ！！」

みんな 「(声を揃えて) ええっ!？」

鉄道警察官 「なんであなた、そんな物つけて電車乗ってるんですか？」

証人 「これから現場に行くところだったんだ。おかげで遅刻だぞこの野郎！」

鉄道警察官 「あ、なるほど。。。とんだ災難でしたね」

証人 「災難だぞこの野郎！」

容疑者 「たとえば、その軍手が鞆越しに彼女のお尻に当たって.....とか、事故ですよ事故」

被害者 A 「そんなごまかしが利くわけないでしょ！！

それらの道具で私に硬くなった物を押し付けて、彼女にイボイボを押し付けて

痴漢したんでしょう！この最低野郎！」

被害者 B 「最低野郎！」

証人 「この野郎！！」

容疑者 「どうしても僕を容疑者にしたいみたいですなぁ...」

鉄道警察官 「あ、証人の方、あなたさっきから見た見たって言ってますけど...

犯行の一部始終を見ていたんですか？」

証人 「見たぞこの野郎」

鉄道警察官 「その様子を詳しく聞かせてもらえますか？」

証人 「そこの女の後ろに、この男が立ってて、イボイボしたものを押し付けたリスカートの中に入れようとしてたぞ」

容疑者 「そんな馬鹿な!? だいたいイボイボした物って何ですか!？」

被害者 A 「それって、大人のおも.....(下手なことを口走ろうとしてハッとする)」

被害者 B 「おも？」

容疑者 「おも？」

鉄道警察官 「(冷静に)使ってるんですか？」

被害者 A 「(恥ずかしくて余計強気に)使ってないわよ!!馬鹿!!」

容疑者 「そんな物.....持ってるわけないでしょう!？」

鉄道警察官 「持ってるわけない。満員電車で大人のおも.....なんて」

証人 「そうか!? 雨の日の満員電車でイライラしたりした時に、リラックスアイテムとして持ってるだろう!? 普通!!」

容疑者 「(思い切り突っこむ)持ってるか!？」

鉄道警察官 「持ってないですね」

被害者 B 「持ってないです」

みんな 「じい——っ (口に出して言う→被害者Aを見ている様子)」

被害者 A 「な、何よその目はっ!? 持ってるわけないでしょうっ!? 馬鹿!!」

証 人 「俺持ってるぞこの野郎っ!？」

みんな 「えええええっ!？」

○SE:ガサゴソと鞆の中を探る音

証人 「(SE:大人のおもちゃを動かす音)ほら。」

鉄道警察官 「ほほお……」

○容疑者が鞆の中から何かを取り出そうとしている。SE:ガサゴソ…

容疑者 「これ、僕の軍手なんですけど……」

被害者 B 「あっ!この軍手のイボイボより、

こっちのおもちゃのイボイボのほうが大きさにそうかも!!」

被害者 A 「そして大人のおも……は硬い……」

○ちょっとした間

容疑者 「ってことは……もしかして」

鉄道警察官 「犯人は……証人であるあなた??」

証人 「あ、ばれちゃった」

鉄道警察官 「早っ。 自白はやっ。」

被害者 A 「ちよっとっ!!あんたいったい何すんのよっ!!

朝からあたしのお尻触って欲求不満解消なんて!!最低っ!!」

証人 「(これまでとは一転して)だあれがお前なんか痴漢するか!!このブス!!

」

被害者 A 「な…この期に及んでしらばっくれる気っ!？」

証人 「オレは、お前の後ろにこの男がいて、なにやらお前がもじもじしてるから
この男もオレと同じように遊んでるのかと思ったんだよ」

鉄道警察官 「完全自供、早っ!」

証人 「そしたら、こいつの傘の柄がお前のケツに当たってたぞ。。。ただそれだけだ」

被害者 A 「え?...えっ?えっ?じゃあ……硬い物って」

証人 「傘の柄。間違いない!痴漢のオレが証人だ」

被害者 A 「……あ、そう。。。へえ」

容疑者 「じ、じゃあ、おっさんが痴漢してたのって……??」

○ちょっとした間

被害者 B 「……え?あ、あたし??」

証人 「うへへへっ♪」

みんな 「えええええええええ~っ!？」

証人 「いやあ……あんた、ホントいいケツしてる。オレあ一目惚れしたよ」

容疑者 「盗人猛々しいとはこのことだ!!」

鉄道警察官 「痴漢ですけどね」

被害者 A 「なんでもいいわよっ！！刑事さんっ！！」

早くこのおっさんを逮捕しちゃってよ！刑事さん！！」

鉄道警察官 「(豹変して)うっせえんだよ！！このアマ！！さっきから聞いてりゃ刑事刑事
って！！」

刑事がそんなに偉いのかっ！？えええっ！？」

容疑者 「ち、ちょっと落ち着いてくださいっ！刑.....鉄道警察の方」

被害者 A 「ちよっ...ちよっと！！なに豹変してるのよ！？」

鉄道警察官 「だいたい組織からナニから全く違うって言ってんだろうがっ！！じゃナニか！
？」

鉄道警官もみんな刑務所から出動すんのか！？あああっ！？」

被害者 A 「だいたいあたし達の税金で食わせてもらって偉そうに言ってんじゃない
わよ！！」

この税金ドロボウッ！！」

鉄道警察官 「なんだと！？この自意識過剰のクソ女があっ！？」

○しばし鉄道警察官と被害者Aの口論

○てんやわんやの中で被害者Bが口火を切る。

被害者 B 「あ、あのお・・・私被害届取り下げます」

被害者 A 「ええっ！？」

被害者 B 「私、こんなに想われたの初めてで・・・なんだか嬉しくて」

証人 「そうかい。そうかい。オレと一緒に来るかぁ？この野郎！！」

被害者 B 「はいっ！」

被害者 A 「ち、ち...ちよっと！！勝手な事しないでくれるっ！？

ちよっと待ちなさいよっ！！」

鉄道警察官 「うるせえっ！！てめえも早く帰りやがれこのメス豚！！」

被害者 A 「なんですって！？もう許さない！！訴えてやるっ！！」

容疑者 「わあっ！？ち、ちょっと落ち着いてっ！！なんでこうなるんだよおっ！？」

○警官と被害者Aの口論のままFO.....

～終わり～